

来・ぶらり

RYUKOKU UNIVERSITY LIBRARY NEWS

龍谷大学
図書館報

No. 61

<https://library.ryukoku.ac.jp>

CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 学生に薦めたいこの一冊
- 04 世界の新聞を読もう！新たに導入した新聞・雑誌データベースPress Readerの紹介
- 06 文学部特別講義協賛展示「源氏物語展～いとみじき花の陰に～」及び大宮図書館新規収集貴重書『源氏物語』について
- 08 第6回全国高等学校ビブリオバトル滋賀県大会開催報告

<TOPICS>

ミニ講義「確率を学ぶ～年末ジャンボ宝くじは当たるのか!?～」開催！



昨年に引き続き、年末ならではの話題となる年末ジャンボ宝くじを題材にしたミニ講義「確率を学ぶ～年末ジャンボ宝くじは当たるのか!?～」を、12月19日（木）の昼休みに瀬田図書館ナレッジスクエアにて開催しました。

講師は、理工学部樋口三郎先生にお願いし、文系の学生には難しいと敬遠されがちな確率について、身近なことから学べるようグラフや表を工夫して分かりやすくご講演頂きました。

当日は、学生20名、社会人1名の参加があり、樋口先生のご説明を皆さん熱心に聞いておられました。参加した学生からは、「説明が大変分かり易くてよかった！」など、多くの反響がありました。

瀬田図書館では、様々な題材を自然科学系、社会科学系の視点から取り上げ、ミニ講義やミニ展覧会を開催しています。



文化財のデジタル化に思う

文学部教授
國下 多美樹

昨年秋の沖縄の首里城被災の衝撃的映像は、文化財保護と共に情報記録の重要性を再認識させた。文化財を保護する法律、文化財保護法は、国宝の法隆寺金堂壁画の焼損を契機に1950年に制定されてから、70年の歴史を有するが、災いは忘れた頃にやってくるということである。文化財の活用を重視する昨今では保護・保存に気配りしなければならないことが多い。

この点で、文化財のデジタル化は保存・活用と共に省力化において有効な道を開いた。私の専門とする考古学分野でもこの動きは著しい（『デジタル技術で魅せる文化財』2018）。遺跡情報の図化は、かつて多くの人で協力し意思疎通を図りながら一所懸命行ったが、今は一人で測れるようになり、簡単に3次元化できる。文化財写真もかつては写真撮影、現像、焼き付けを自身の手で行っていたが、今はパソコンで自由に加工できる。アナログ時代のガラス乾板を保全して活用する史料研究も進む（『文化財としてのガラス乾板』2017）。当面、あらゆる文化財はデジタル志向であると予測できる。

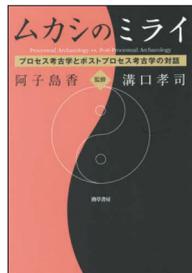
一方、私は学生諸氏に向けてアナログを知ってからデジタルを扱いなさいと言いつけている。というのも、デジタル情報は、情報を整理し、秩序化するプロセスが見えづらいから。物事は何も無いところから組み立てることは難しいが、組み立てる過程はさらに難しい。情報は、「無秩序あるいは混沌の状態にあるもの」に対して、何かの秩序を指定するもの（湯川秀樹・梅棹忠夫『人間にとって科学とは何か』18頁）と定義されるから。過程を重視するために面倒臭いこともお願いしている。汗をかいて作りあげた情報は、独特の達成感と満足感があることを知って欲しいという願いからである。

図書館も同様である。配架は決められた序列があり、図書検索はデジタル情報を利用する。しかし、書架の前に立って探せる環境は不可欠である。意外なことだが、書架の前にたつと、目的の本とは異なる本も借りてしまう。本の大きさ、カバーの手触り、重量感など、ネットでは知ることが難しい情報があるからではないか。将来、デジタル化が進み配架が見えにくくなったときに、図書という文化財に気配りできなくなるのではという危機感をもつのである。



『ムカシのミライープロセス考古学とポストプロセス考古学の対話ー』

阿子島香・溝口孝司【監修】 勁草書房 2018年



ノーベル化学賞を受賞された吉野彰氏は、考古学に学び、科学を極めました。現代に生きる科学者は過去に学び将来を見据えます。

考古学も昔を見ながら未来を考えますが、過去の現象を説明する理論はあるのでしょうか。本書は、プロセス考古学とポストプロセス考古学を専門とする両理論考古学者の対談を皮切りに隣接分野の研究者も混じえ、多様な立場から将来を見据える方法を教えてください。人文科学を学ぶ学生諸君、一読あれ。

文学部教授 國下 多美樹

大宮図書館
大宮・3F 開架図書
407/MUK
資料番号 21805017584

『「家族の幸せ」の経済学 : データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』

山口慎太郎【著】 光文社 2019年



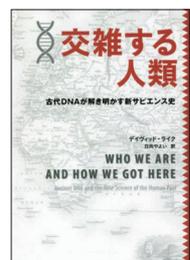
経済学で分析される問題の中でも、とりわけ教育や家族の問題は、経済学者ではない人も話題にすることが多い問題です。居酒屋で繰り広げられる議論などは、たしかに各人の経験をもとにしているためか、それなりに説得力があります。他人のアドバイスを参考にすることもみなさん少なからずあるでしょう。どのようなアドバイスが科学的根拠を持つものであるのか、どのようなアドバイスが単なる思いこみにすぎないのかを本書は教えてください。

経済学部准教授 兵庫 一也

深草図書館
深草・文庫・新書
081/コウブ/1015
資料番号 11900022625

『交雑する人類 : 古代DNAが解き明かす新サピエンス史』

デイヴィッド・ライク【著】 日向やよい【訳】 NHK出版 2018年



著者のD.ライクは化石や古人骨から取り出された古代DNAの研究の第一人者です。私たちホモ・サピエンスはアフリカで進化し、やがて数万年前にアフリカから世界中へ広がっていきました。その過程で私たちの祖先は異なる集団に分化するとともに、時に別の場所で互いに再会し交雑を繰り返し、更に新しい集団へと変化していきました。その結果、現在、世界には身体特徴も文化もそれぞれに異なる多様な人々が暮らしています。本書は古代DNAを手がかりに、私たちホモ・サピエンスの辿った過去の歴史を生き生きと再現して見せてくれます。私たちはどこから来たのかーそんな疑問をもつあなたにオススメの一冊です。

経営学部教授 國松 豊

深草図書館
深草・和館開架
469.2/ラデコ
資料番号 11900019277

瀬田図書館
瀬田・本館 2F 開架
469.2/ラデコ
資料番号 31805022446

『愛国という名の亡国』

安田浩一【著】 河出書房新社 2019年



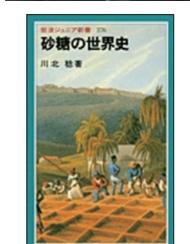
フェイクがファクトを駆逐し、社会に広がっている。なぜだろう。しばしば人々は忘れたい「都合の悪い歴史的事実」をなかつたことにするために、信じたい事実として「フェイク」を拡散し、それが人々の「本音」と結びついて語られる。これにより歴史が忘却され、本来向き合わなければいけないことを避けるようになる。不安が強く、将来の見渡しがつけ難い今日の社会において、不平をもつ人たちの「本音」とされるものをフェイクニュースがすくい上げる。「信じたい事実」と「本音」の結託だから、「気持ちよく」受け入れられ、世の中に流布する。これによって何よりも加害者を被害者に転化してしまう。本書はこのようなフェイクニュースが社会問題化する背景についても考えさせる必読の書である。

法学部教授 金 尚均

深草図書館
深草・8号館開架図書
361.8/ヤコア-C
資料番号 11905037123

『砂糖の世界史』

川北稔【著】 岩波書店 1996年



砂糖は白く甘い。砂糖はかつて貴重品で薬として珍重されていた。この砂糖は世界商品となり、世界の歴史を形作ってきた。かつて存在した奴隷制は今もアフリカに爪痕を残している。これもまた、砂糖をめぐる各国の争奪戦から生み出されたものであることを本書を通じて理解することができる。砂糖という一つのモノを中心に据えることで世界史は立体的に見えてくる。本書は、中高生向きに平易な文体で書かれていてとても読みやすい。一読をお勧めしたい。

政策学部教授 大島 堅一

深草図書館
深草・8号館開架図書
588.1/カミ-E
資料番号 19600064867
深草・文庫・新書
081/イワノ/276
資料番号 11500004373

瀬田図書館
瀬田・本館 2F 開架
588.1/カミサ
資料番号 30200067024

『2030年未来への選択』

西川潤 [著] 日本経済新聞出版社 2018年



2019の時の人であるグレッタ・トゥーンベリが怒りの感情をあらわしたように、今世界は気候変動を含め不確定要素に包まれている。本書は、人口、食料、エネルギー、資源、経済成長率などの推移を元に、2030年の未来像を浮かび上がらせる。その内容は決して楽観的ではない。現政権のアベノミクスは誤信であると断ぜられるが、それ以上に世界全体が自己崩壊する危険性さえある。しかしながら、今後のあるべき世界へ近づくために、まさに今私たちはいかにして懸命な選択をすべきかを明快に提示している。



国際学部教授 斎藤 文彦

瀬田図書館
瀬田・本館 1F 文庫
081/ニツケ/364
資料番号 31700016605

『なぜ日本は没落するか』

森嶋通夫 [著] 岩波書店 1999年

『未来の地図帳：人口減少日本で各地に起きること』

河合雅司 [著] 講談社 2019年

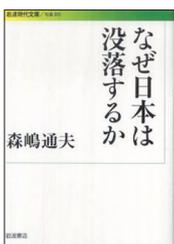
『教育激変：2020年、大学入試と学習指導要領大改革のゆくえ』

池上彰、佐藤優 [著] 中央公論新社 2019年



本の断捨離を少しずつ始めている。20年前に読んだ本とお別れしようと、何気なく中を見たら最後まで読み返すことになった。経済学者の森嶋通夫の「なぜ日本は没落するか」は、経済という視点にとられず社会の土台となる「人間」に視点を当て、日本社会の構造的な問題から50年後を予測している。現在の日本が抱える人口減少と教育問題について本質をついた指摘がなされており、関連して最新の人口減少と教育をテーマにした書籍「未来の地図帳」(河合雅司)と「教育激変」(池上彰、佐藤優)を読むと、先延ばしできない問題がダイレクトに伝わってくる。

理工学部教授 森田 善久



深草図書館
深草・和顔館開架
302.1/モミナ
資料番号 19900016171
深草・8号館開架図書
302.1/モミナ-E
資料番号 19900057001



深草図書館
深草・文庫・新書
081/コウタ/2524
資料番号 11900019745



深草図書館
深草・文庫・新書
081/ラクレ/653
資料番号 11900008024

『アレクサンドリア四重奏 ジュスティーン』

ロレンス・ダレル [著] 高松雄一 [訳] 河出書房新社 2007年



舞台は第二次大戦前後のエーゲ海のアレクサンドリア。多文化が入り交じる混沌とした都会で、売れない作家の主人公の恋愛物語の裏に、壮大な政治的策謀が展開する。全四冊だが、最初の三巻は同じ事件を主人公の一人称の視点、友人の二人称の視点、著者の三人称の視点で描き分けた実験的小説として、最後の巻は思想小説として、それぞれ完成された内容を誇る。二十世紀文学の傑作に数えられる作品であり、一読をお勧めする。

社会学部教授 村澤 真保呂



瀬田図書館
瀬田・本館 B1 開架
933/タロア/1
資料番号 31405030700

『品種改良の世界史 作物編』

鵜飼保雄、大澤良 [編著] 悠書館 2010年



私たちの生活はさまざまな作物によって支えられています。この本では、私たちの社会を支えてきた代表的な21種類の作物について、どこで栽培化され世界各地へどのように伝わり広がったのか、伝わった先の社会にどのような影響を与えたのか、時代や社会の要請にたえてどのように改良されていったのかという作物の歴史がわかりやすく解説されています。遺伝学・育種学の知識がない人にもわかりやすく書かれていますので全ての学生におススメです。

農学部講師 竹中 祥太郎



深草図書館
深草・和顔館開架
615.21/ウヤサ
資料番号 11000042722

瀬田図書館
瀬田・本館 2F 開架
615.21/ウヤサ
資料番号 31105049591

『「空気」を読んでも従わない：生き苦しさからラクになる』

鴻上尚史 [著] 岩波書店 2019年



著者は、「日本は素敵な国です。・・・そして、同時に、とても同調圧力が強い国なのです」と述べている。つまり、自分の言動を周囲に合わせざるを得ない空気がある、というのである。そのわけを「世間」と「社会」という二つの世界を通して、多くのエピソードと共に説明している。

その内容は、学生にとってよく見聞きすることばかり。だから「あっ、そういうことだったのか」と納得できるうえ、周囲を気にせず自分のことが誇らしく思える一冊である。

短期大学部教授 窪田 和美



深草図書館
深草・文庫・新書
081/イワナ/893
資料番号 11900009548

世界の新聞を読もう！

新たに導入した新聞・雑誌データベース Press Reader の紹介



Press Reader について

Press Reader は、世界各国から 7,000 タイトル以上の新聞・雑誌を発行と同時にアクセス可能なデータベースです。世界各国の著名な新聞である、Washington Post (米)、Gurdian (英)、le Figaro (フランス)、Izvestia (露)などを収録し、フルカラーで誌面と同じレイアウトで全ページを閲覧することができます。キーワード検索、翻訳や音声読上げ、イメージ画像のみの閲覧、ソーシャルメディアでの共有機能など、オンラインデータベースならではの機能を同時アクセス数無制限にてご利用いただけます。

Press Reader の利点・特徴

充実した収録コンテンツ

120 カ国以上、60 言語、6,000 誌を超える新聞、雑誌が刊行と同時に閲覧可能です。

最大 90 日間まで遡って過去号を閲覧・ダウンロード可能で、フルデジタルレプリカ（紙面で提供された内容を含むそのまの形）を提供しています。

入手困難な情報をいち早く手元に

日本国内では早期の入手が困難な中東、南米、アフリカなど世界各地の新聞情報を、新聞が刊行されたその日のうちに、報道されたままの紙面イメージで入手できます。

ひとつの事象を多数の視点から

国際紛争や多国間交渉などは、それぞれの当事国独自の報道があります。西側諸国で報道された内容と、中東諸国で報道された内容との比較が出来ます。

PressReader アプリ

いつでも、どこからでも新聞を読むことができます

専用のアプリをスマートフォン・タブレット端末にインストールすることで、通学時などの時間を活用して世界各国の最新ニュースを知ることができます。アプリの利用時に学内の Wi-Fi を利用することで、本学からアクセスとして認証され無料で利用できます。

また、認証から 168 時間（7 日間）は、学外からでも無制限に PressReader を利用することができます。



Android



iOS の場合
(iPhone iPad)

収録誌例（世界各国の代表的な新聞）

北米	The Washington Post、USA Today、Los Angeles Times、The Globe and Mail
欧州	The Guardian、Daily Mail、Le Figaro、Der Tagesspiegel、Rheinische Post、Corriere della Sera
アジア	China Daily、東亜日報、 The Straits Times、 The Times of India
中東・アフリカ	Jerusalem Post、 The Kurdish Globe、 Ahram Beeld



豊富な機能

- 音声による記事の読み上げ機能
- 新聞・雑誌の最新号をエンバーゴ無しで提供
- 携帯端末・タブレット専用アプリで学外からのアクセスが可能
- キーワード検索や国・分野を指定した絞り込み検索も豊富
- ユーザー登録を行うことでアラート機能などの利用も可能
- 世界各国のユーザーコメントを閲覧可能
- SNS やメール機能を用いて個別記事の共有

活用事例

政治学・国際研究を学ぶ学生の場合

- ・毎日 PressReader で国内外のニュースを読みましょう。
- ・時事問題や国際関係についての知識を持って授業中の議論に参加しましょう。
- ・世界中の様々な問題について、他の国やメディアの様々な視点を探ります。
- ・トピック・アラートを設定し、記事をコレクションに保存して、毎週トピック記事のコレクションを作成できます。

ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、広報を学ぶ学生の場合

- ・毎日 PressReader で国内外のニュースを読みましょう。
- ・時事問題と国際関係を完全に把握しましょう。
- ・掲載記事には無制限にアクセスできます。多くの記事を読み構造を学びましょう。

外国語を学ぶ学生の場合

- ・PressReader でさまざまな言語の信頼できる出版物のニュースを読みましょう。
- ・60 言語で 120 か国以上の吟味されたコンテンツを使用して、標準の言語と文構造を学びましょう。
- ・コンテキストを確認したい場合は、記事を 18 の異なる言語に翻訳してください。よくわからない部分の意味を再確認するのに役立ちます。

外国語を教える教員の場合

- ・授業中、PressReader で様々な言語の信頼できる出版物のニュースを使用できます。
- ・グローバルで信頼できる吟味されたコンテンツの記事と、文の標準構造を生徒に教えることができます。
- ・7,000 タイトル以上の出版物の豊富な記事を活用し、クラスのあらゆるレベルの学生に適したコンテンツを提供します。
- ・PressReader では、学生の興味をカバーする様々なカテゴリーの記事を用意しています。

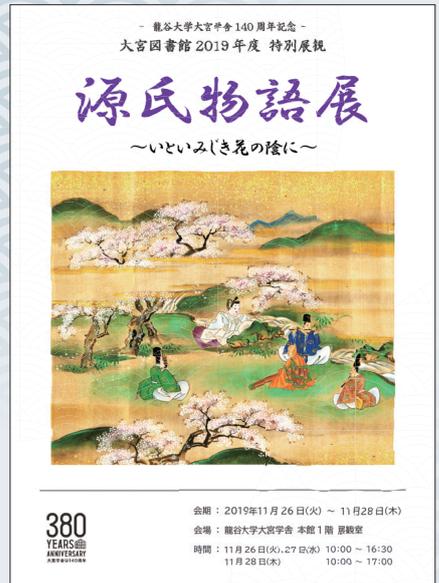
「源氏物語展 ～いとみじき花の陰に～」

2019年、龍谷大学は創立380周年を迎えましたが、現在の大宮学舎の場所に、龍谷大学の前身である大教校が落成して、ちょうど140周年を迎えます。大宮学舎の本館、北翼、南翼、正門は、落成当時から今日まで、行事や授業の場として使われています。

大宮学舎140周年を記念して、様々なイベントが開催されました。そのイベントの一つとして、本学客員教授藤本孝一先生による特別企画「新出の藤原定家本『若紫』について」講演会が開催されました。藤本先生は、発見された『源氏物語』第5帖「若紫」の写本鑑定に貢献され、藤原定家が書写したものと判明したことから、2019年10月に大きく報道されました。講演では「若紫」の資料を投影し、鑑定时に注視された点や過去の『源氏物語』の資料と比較された点などについて説明されました。

大宮図書館では、『源氏物語』関連の貴重資料を多数所蔵しており、藤本先生のご講演に協賛して、2019年11月26日(火)～11月28日(木)の間、大宮学舎本館に於いて、展示「源氏物語展～いとみじき花の陰に～」を開催しました。

展示では、『源氏物語』の写本や刊本が展示された他、『源氏物語』の注釈書である『源氏物語細流抄』、『源氏物語聞書』や、『源氏物語』に関連した屏風や絵巻なども展示されました。開催期間は僅か3日間でしたが、学内外から288名の方が来館され、興味深く見学されました。



「源氏物語展」ポスター



「源氏物語」(絵入源氏物語)



「源氏物語屏風」



「源氏画」



「源氏物語絵巻」

新規収集貴重資料の紹介 ～『源氏物語』について～

大宮図書館では、毎年、江戸時代以前の国書や清朝以前の漢籍、本願寺関係の資料や大谷探検隊に関連する資料などを対象に、研究や学習に適した貴重資料を選び、収集しています。

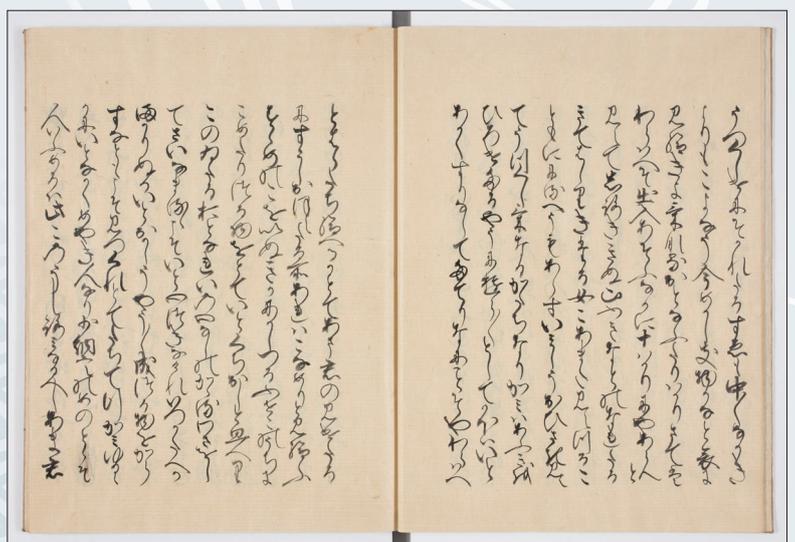
2019年度は、『源氏物語』を貴重資料として新たに収集しました。

大宮図書館には、これまでの収集により、『源氏物語』の写本や刊本が多数所蔵されています。新規収集された『源氏物語』は写本であり、大きさが各冊によって僅かに違いがあるものの、およそ縦 30.1cm 横 23.1cm とこれまで収集した資料に比べて、大きな書型が特徴です。

明確な書写時期は判明しませんが、本文に使用されている紙や写本の筆跡から判断して江戸時代初期のものと認められます。表紙及び見返し紙も含めて、すべて作られた当時のままです。すべての冊において、本文料紙が良質であること、公家の美しい筆跡によってかなり丁寧に書写されていること、しかも十人余りが関与した寄合書であることから、相当高い家格の公家のもとで制作されたものと思われる。

本文の系統は、歌人藤原定家の校訂になる青表紙本系統になりますが、朱による合点や朱点の付加、異本注記などが見られ、『源氏物語』を研究する上でも、非常に高い価値を示しています。

2019年度秋に開催した文学部特別講義協賛展示「源氏物語展～いとみじき花の陰に～」では、展示資料の一つとして出陳いたしました。新たに収集した資料を公開したこともあり、見学者の方々は、興味深くご覧になられていました。今後も、展観や研究、学習などに活用していく予定です。



新規収集貴重資料『源氏物語』

第6回全国高等学校ビブリオバトル滋賀県大会開催報告



2019年10月26日(土)に「第6回全国高等学校ビブリオバトル滋賀県大会」を瀬田図書館にて開催しました。

ビブリオバトルは、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がっている本の紹介コミュニケーションゲームです。ビブリオバトル(発表者)たちがおすすめ本を持ち合い、1人5分の持ち時間で書評した後、バトルと観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定します。

本学では2017年より、全国高等学校ビブリオバトル滋賀県大会を主催しており、今年は昨年の発表者数を上回る6校14名の高校生が滋賀県代表枠をかけ、ビブリオバトルを行いました。

発表者数が増えたことにより、A～Dグループに分かれて行うグループ予選と各予選グループの予選通過者1名が進むことのできる決戦の二部構成での実施となりました。予選・決戦の司会等の会場運営は、図書館で活動をしている学生団体が行いました。

予選は、瀬田図書館本館地下1階のグループワークルーム及びナレッジスクエアにて行われました。予選のグループ分けは、くじによって決定され、観客が見守る中、緊張している様子が懸命にプレゼンをする発表者や、観客が感心するほどの圧巻のプレゼンをする発表者など、学校や学年の壁を越えた白熱したグループ予選が行われました。



発表者が紹介した本は、以下のとおりです。

紹介本	著者名等	出版社
「世界征服」は可能か?	岡田斗司夫	筑摩書房
心がフッと軽くなる「瞬間の心理学」	名越康文	角川SSコミュニケーションズ
ディズニーの魔法	有馬哲夫	新潮社
人を喜ばせるということ だからサプライズがやめられない	小山薫堂	中央公論新社
異世界落語	朱雀新吾	主婦の友社
さみの言い訳は最高の芸術	最果夕ヒ	河出書房新社
哲ねこ七つの冒険	飯野真澄	NHK出版
螺鈿迷宮	海堂尊	角川書店
海賊とよばれた男	百田尚樹	講談社
夏の終わりに君が死ねば完璧だったから	斜線堂有紀	KADOKAWA
吉里吉里人	井上ひさし	新潮社
銀の匙	中勘助	KADOKAWA
ホモ・デウス	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社
幽霊人命救助隊	高野和明	文藝春秋

Aグループからは、滋賀県立高島高等学校1年の采野 愛梨さん、Bグループからは、光泉高等学校2年の中野 仁さん、Cグループからは、立命館守山高等学校1年の油布 愛奈さん、Dグループからは、滋賀県立膳所高等学校2年の岩田 悠真さんが各グループ予選を突破し、瀬田図書館本館地下1階のナレッジスクエアにて決戦を行いました。30名以上の観客の中でのプレゼンとなりましたが、さすがは予選を勝ち抜いた4名ということもあり、身振り手振りを駆使したり、時には笑いを誘ったりと、自分のお勧め本を精一杯アピールしていました。



決戦の結果、滋賀県立高島高等学校1年の采野 愛梨さんが紹介した「幽霊人命救助隊」がチャンプ本に輝きました。これにより采野さんは、よみうり大手町ホールにて開催される「第6回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会」への出場権を獲得しました。

